



## IB 教育特集 第4号 世界とつながる学びとカタチ —国際バカロレア(MYP)の評価と進路—

本校が導入の準備を進めている国際バカロレア (IB) のミドル・イヤーズ・プログラム (MYP) は、単なる知識の習得にとどまらず、「いかに学ぶか」を身につける教育枠組みです。今回は、評価の仕組みと将来の進路について解説します。

### 1. 2つの評価、その「関係性」

MYP を実施する学校では、生徒の皆さんは実質的に「2つの評価」を受けることになります。

- ・ MYP 評価 (1~7 のスコア)：世界共通の IB 基準で、「何ができるようになったか」を評価。
- ・ 学習指導要領の評価 (A・B・C や 5 段階)：従来からある通知表に記載される評価。

日々の授業や課題 (IB の活動) を、2つの異なる「物差し」で測るというイメージです。



### 2. 「IB の評価」を「日本の評価」に変換する仕組み

MYP では、各教科で定められた「4つの観点」を、それぞれ 8 点満点で評価します。

- ・ IB の評価プロセス：提出物やプレゼンテーションなどを「IB の評価基準 (0~8 点)」で採点し、最終的に「IB スコア (1~7)」を算出します。
- ・ 通知表への反映：この IB での学びのプロセスや成果を、学習指導要領が定める「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点到当てはめて、通知表の成績 (5・4・3...) を決定します。

IB の課題に取り組むことが、そのまま通知表の評価につながります。IB の学びを頑張ることが、高校入試や進学に必要な「内申点」を疎かにすることにはなりませんので、安心してください。

### 3. 進路への影響とメリット

「IB の勉強をすると、受験に不利にならない？」という質問を受けますが、実際は逆です。

- ・ 思考力を問う入試への対応：近年の入試改革により、公立高校入試や大学共通テストで「文章を読み解き、自分の考えを論理的に書く問題」が増えています。MYP の評価基準で日々トレーニングを積むことは、こうした入試に直結する力となります。
- ・ 「自分を知る」評価：1~7 のスコアと、詳しいフィードバックにより、「自分の得意・不得意」が明確になります。これは、自分に合った進路を選ぶための大きな助けになります。

最初は新しい評価基準に戸惑うかもしれませんが、先生たちは皆さんが「どこまで理解し、どう成長したか」を多角的に見守るためにこの仕組みを活用します。数字だけでなく、「何ができるようになったか」に注目して、新しい学びに挑戦していきましょう。